

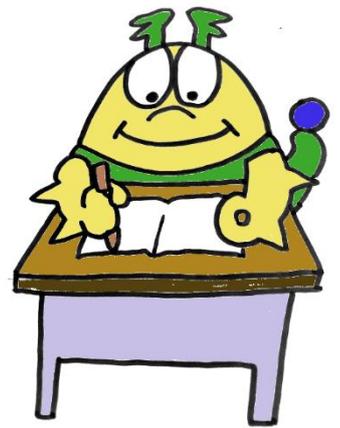
# 令和4年度 手作り教材集

<ご覧の皆様へ>

この教材集は、千葉市立第二養護学校の若年層職員研修会「さわやか研修会」にて、自作教材の紹介をまとめたものです。

個人情報の取り扱いには注意をしておりますが、ご覧になれる方もモラルをもってご活用いただけますようお願いいたします。

1. やさいをすっぽーん！（ことば・かず）
2. えあわせ・ひらがなマッチング（ことば・かず）
3. 平仮名のマッチングをしよう（ことば・かず）
4. 長さを比べて並べよう（ことば・かず）
5. おおきい ちいさいをわけてみよう（ことば・かず）
6. ペーパーサート台と名前札（ことば・かず）
7. 動物感触かみしばい（ことば・かず）
8. セルフレジ（生活単元学習）
9. 僕たち私たちの朝ごはん（生活単元学習）
10. 量を比べて並べてみよう！（個別課題）
11. 指先トレーニングキャップ（個別課題）
12. いただきま〜す！（個別課題）
13. つかんで、とってみよう（個別課題）
14. とって、はずして何が出る？（個別課題）



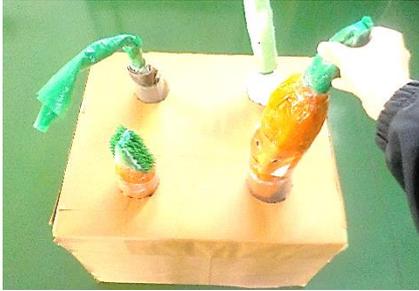
教材名

# やさいをすっぽーん！

目的 ・目と手の協応がねらいの児童らに向けて、集団で取り組める教材を作った。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① 畑に見立てた段ボールの中から茎の部分をつかんで、野菜の模型を引き抜く。
- ② 台車の上にある箱の中に入れる。  
(実態に応じて、仕切りのある箱に1つずつ入れる。)
- ③ 台車を押して鍋の近くまで運ぶ。

(工夫)

- ・活動の前に読み聞かせをする「やさいさん」に出てくるやさいのイラストを模型に貼り、興味がわくようにした。
- ・子供たちが持つ野菜の茎の部分の素材を変えて、感触の違いが出るようにした。(ビニール、フェルト、梱包材、人工芝)
- ・鈴を貼りつけたり、光るボールを入れたりして、模型を引き抜く際に視覚や聴覚からも楽しめるようにした。
- ・児童に、動きの方向性を考えて操作してほしいと思い、野菜を上方向にしか抜けないようにした。
- ・模型の大きさを調整して、引きぬく際に負荷がかかるようにした。また、野菜の実の部分の形を変えることで、抜けるときの感覚が変わるようにした。
- ・物を押すことが好きな児童がいたため、箱を載せる土台を台車に見立てゴールまで運べるようにした。

(使用感・改善点)

- ・手で触る感覚を楽しみながら、取り組む姿が見られた。
- ・絵本に出てくる「やさいさん」の顔をつけたことで、野菜の模型をじっと見つめる児童がいた。
- ・手元で課題に取り組んだ後、身体を動かすことができるので、メリハリがでた。
- ・野菜を差し込む部分が柔らかくて、壊れやすかった。
- ・模型の大きさを調節して抜けにくくしているのので、大人が準備する際に差し込みにくかった。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

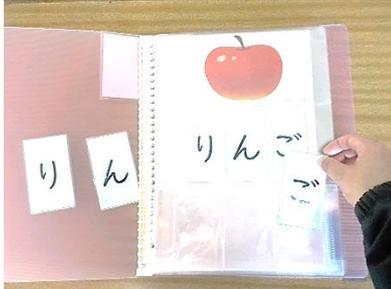
- ・自立活動

教材名 **えあわせ・ひらがなマッチング**

目的 ・パズルや絵合わせカードを楽しめる児童に向けて、平仮名の文字マッチング課題を作った。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



見本なし ver



(使い方)

- ① イラストを見て、単語の見本をもとに、平仮名の文字カードをポケットに入れる。
- ② ページをめくり、裏側にイラストが正しく並べられているかを確認する。
- ③ 慣れてきたら、単語の見本を隠して、文字カードを並べてポケットに入れる。

(工夫)

- ・文字カードを正しく並べると、裏側にイラストができるようにして、児童自身で確かめることができるようにした。
- ・イラスト、見本、ポケットをそれぞれめくれるようにすることで、児童の実態に応じて、見本なしで取り組める課題にした。
- ・バインダーにまとめたことで、児童が1人でも課題に取り組めるようにした。
- ・平仮名の文字マッチングとしての使い方のほかに、3分割のパズルとしても使えるようにした。

(使用感・改善点)

- ・児童がページをめくって、裏のイラストが正しくできているかを確認しながら取り組んでいた。
- ・見本の単語の上に文字カード並べてから、ポケットにしまう児童があり、自分なりに工夫して取り組んでいる姿が見られた。
- ・休み時間に、3分割パズルとして遊んでいる児童も見られた。
- ・ポケットが透明で、入り口がわかりづらかった。
- ・ポケットに入れたことで、1枚1枚のカードの間に隙間ができてしまい、完全に同じイラストにはならなかった。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・個別課題

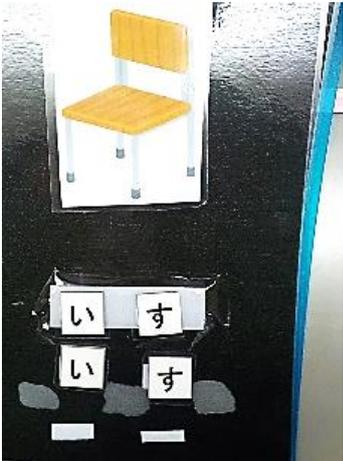
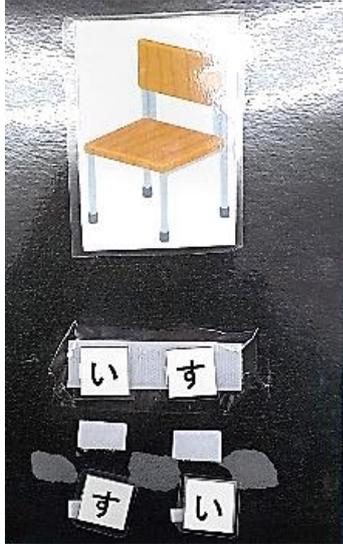
教材名

## 平仮名のマッチングをしよう

目的 ・平仮名の形を分別できる児童が、平仮名の読み方や、組み合わせると単語になることを知ってもらう。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① 事前に文字チップをばらばらに並び替えておく。
- ② 見本の平仮名を見て、文字チップを並び替える。  
平仮名と音の一致を図るため、教師がお手本の文字を指差しながら、音読し、児童も声を出す。
- ③ 次のページに進む。

(工夫)

- ・リングファイルを使用し児童が一人でも取り組めるように、また、実態や状況に応じてページを増やせるようにした。絵カードも取り外して、他のカードをつけることができる。
- ・黒い台紙を使ったことで、絵カードと文字チップが強調されるようにした。

(使用感・改善点)

- ・実態に応じて、複数の文字チップから該当する文字チップを選び取らせてもよい。
- ・見本の文字チップを外して、絵だけを見て、文字チップを並び替える活動も考えられる。その際は、絵をめくると、正解の見本が見えるようにする。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・個別の課題
- ・自立活動

教材名

# 長さを比べて並べよう

目的 ・比較の学習をしている児童に、長さを比べて短い（長い）を順に並べる力を付けてもらいたい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



（使い方）

① 一番短い（長い）棒を線枠の部分にはめる。

② 残りの6本を比べながら並べていく。

③ 全部終わったら、上部が短く、段々と長くなっていることを確認する。

（工夫）

- ・土台の木の棒をはめる部分と、木の棒の片方の端に色をつけて、端を揃えて比べるということを意識付けられるようにした
- ・最初に棒をはめる場所は線で示し、取り掛かりになるようにした。短い棒の線が書いてあるもの、長い棒の線が書いてあるものを作った。

（使用感・改善点）

- ・最初は、他の棒は隠し、2本ずつ比べる活動を行ってもよい。
- ・出来上がった時の達成感を味わえるように、木の棒に絵を入れてもよい。（今回は長さの比較だけで活動できるよう、絵は入れなかった。）
- ・木の棒に目盛りをつけて、目盛りの個数でも比べられるようにすると、より分かりやすい。
- ・マジックテープで固定できるようにしてもよい。
- ・答え合わせのできるシートを作成してもよい。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・個別課題

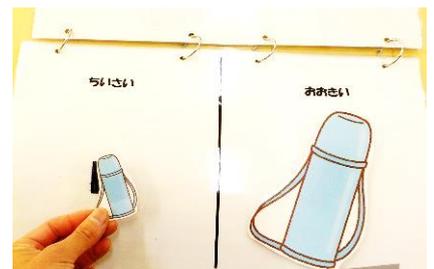
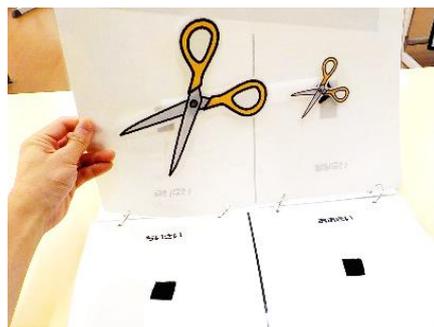
教材名

# おおきい ちいさいをわけてみよう

目的 ・比較の勉強をしている児童に、見比べてどちらが大きいか、小さいかを判断する力を付けてほしい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① ページをめくり、めくったページに同じイラストで大きいものと小さいものの2種類のイラストが貼ってあるので、はがす。
- ② 手前側の「おおきい」と「ちいさい」に区切られている箇所に貼る
- ③ 全部終わったら教師に確認してもらう。

(工夫)

- ・入門編として作ったので、大きさをハッキリと分かりやすいサイズにした。見やすさも考えて、A3のサイズで作成した。
- ・すべて左は小さい、右は大きいイラストを貼るように統一した。

(使用感・改善点)

- ・作って使用してから感じたことだが、「おおきい」イラストはマジックテープが強すぎて、力が弱い児童だと剥がせないかもしれないと感じた。
- ・分かっていなくても1/2で正解してしまうので、勘でやってしまう児童には大人がマンツーマンでやらなければならない。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

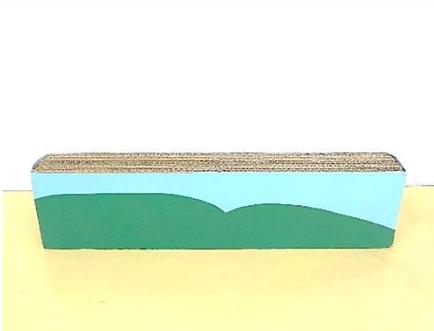
- ・個別課題
- ・自立活動

教材名 **ペープサート台と名前札**

- 目的
- ・今まで学習してきたものを、少し違うやり方にする事で、児童の興味関心を引く。
  - ・割り箸を差す場所をよく見て差したり、自分で差したい場所を考えて差したりすることができる。

教材等の写真添付

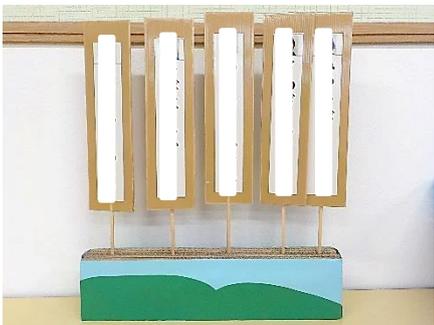
教材の紹介や工夫の要点



(ペープサート台)



(名前札)



(名前札を立てたところ)



(段ボールの穴に差す)

(使い方)

- ① 教師に呼名をされたら、返事をする。
- ② 札を受け取り、ペープサート台に差す。

(工夫)

- ・ことば・かずのグループ名が「はらっぱグループ」なので、はらっぱの絵になるように側面を工夫した。
- ・名前札の素材は厚いプラスチック段ボールにして、児童が扱っても壊れにくいようにした。

(使用感・改善点)

- ・児童は、差して立てるという使い方がすぐ分かった様子だった。手元をよく見ることが課題の児童も、段ボールの穴をよく見て差すことができていた。
- ・ペープサート台は、名前札以外にも様々な教材を提示するのに活用することができると考えた。
- ・児童の顔写真も札に貼ったが、実態を見て無くしても良いと感じた。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動
- ・朝の会

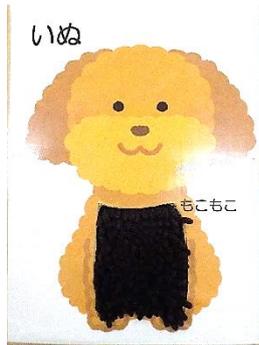
教材名 **動物感触かみしばい**

目的

- ・感覚過敏で自分から手を出して物を触ることが難しい児童がいたことから、さまざまな感触に慣れて、触ることへの抵抗を少しずつ減らしていきたいと思ったため。
- ・ただ本を見るだけではなく、児童に触ることを通して注視することを促したいと思ったため。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① 児童の前で「もこもこ」や「さらさら」といった素材の感触を表す言葉を言いながら紙芝居を見せる。
- ② 自分から触ることが難しい児童には、児童の手を持って上下左右に動かし、感触に慣れることができるようにする。

(工夫)

- ・児童にとって身近な動物をきっかけにして、動物に注視したり、素材を触ってみたりしようという気持ちを高められるようにした。
  - ・それぞれの動物で感触に差が生まれるようにして、児童がいろいろな感触を体験できるようにした。
- (いぬ：モップ素材、うさぎ：メッシュ素材、ペンギン：ひんやりタオル  
しろくま：羽毛素材)

(使用感・改善点)

- ・最初は触るとすぐたさから手を引こうとする姿があったが、繰り返し取り組むことで、感触の刺激に慣れて、自分から触ることができるようになった児童がいた。
- ・4つの中では、犬のもこもこした素材が児童には人気で、目の前に見せると手放さずずっと触っている児童が多かった。
- ・手のひらと甲で触る児童や、指や爪で引っかいたり、叩いたりして音を楽しんでいる児童もいた。
- ・ラミネートと感触素材を交互に触って感触の違いを感じている児童がいた。
- ・素材とラミネートの間に隙間があり、そこに手を入れてしまう児童がいて、破れそうになることがあるので注意が必要。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動

教材名

## セルフレジ

目的 ・自動精算機を使ってお金の払い方が分かるようになってほしい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



操作画面



(使い方)

- ① レジに買いたいものを持っていき、店員さんに会計をお願いする。
- ② 店員さんにバーコードを読み取ってもらい、案内されたレジで支払いする。
  - (1) 音声を聞いて、支払方法(現金)を選び文字をタッチする。
  - (2) お財布からお金を出して、現金投入口に入れる。
  - (3) おつり受け取り口から出てきたおつりを取り、財布に入れる。
  - (4) レシートを取り、財布に入れる。

(工夫)

- ・スーパーにある自動精算機に似せた画面、音声を再現してギガタブスライドで作成した。
- ・選択画面で押ししてほしい場所はわかりやすいように色枠を付けた。
- ・お金を入れたとき、おつりが出てきたときに、音が鳴るようにステンレスボウルを使用した。
- ・音声を繰り返し再生に設定し、繰り返し聞けるようにし、おつりレシートなどの取り忘れがないようにした。

(使用感・改善点)

- ・音声をよく聞いて、音声通りに取り組もうとしていた。
- ・ギガタブのスライドでは、指定の場所を押しても次の画面に移る設定が出来ないため、マウスを使って教師が子どもの動きに合わせて遠隔操作を行った。iPadがあればタッチで画面を移すことができる。

&lt;他に活用できそうな教科領域および場面&gt;

- ・自立活動
- ・個別課題

教材名 **僕たち私たちの朝ごはん（写真・スライド）**

- 目的
- ・自分や友達の朝ごはんを見て、それぞれの家庭でご飯が違うことを知る。
  - ・朝ごはんを食べることが良いことだと知る。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



（家庭で朝ごはんを食べている様子、ギガタブの画面を撮影）



（スライド）



（依頼文）

（教材準備・使い方）

- 【準備】 ・各家庭に、ギガタブで朝ごはんの写真を撮影してもらう。
- 【使い方】 ①各家庭の朝ご飯の写真を提示し、どの児童の朝ごはんの写真か紹介する。
- ②スライドで、朝ごはんの写真と児童が実際に食べているところの写真、映像を見せる。
- ③朝ごはんについての説明をスライドでする。

（工夫）

- ・家庭にギガタブでの撮影をお願いするに当たり、
  - (1)依頼文で、授業のねらいや教師の思いを伝えられるようにする。
  - (2)ホーム画面のバナーに、カメラとフォルダをショートカットできるようにアイコンを載せる。
  - (3)授業後、連絡帳にてお礼を申し上げ、授業の様子を簡単に伝える。という点に気を付けたり、工夫をしたりした。
- ・児童の興味を引く教材提示をすることができるように、写真はスライドで見せるだけでなく、紙にも印刷して、児童が手元で見られるようにした。
- ・朝ごはんの説明のスライドでは、できるだけ枚数を絞り内容を簡潔に伝えることができるようにした。

（使用感・改善点）

- ・授業のねらいを依頼文でしっかり伝えたことで、朝ごはんの写真だけではなく、児童が実際に食べている写真や動画も自主的に撮ってくれた家庭があった。
- ・児童はとても興味をもって、教材を注視していた。自分の家の朝ごはんの写真が出ると、自分のだと分かって反応したり、友達の朝ごはんの写真は「〇〇ちゃんのご飯」と予想したりしていた。
- ・ギガタブでの撮影がうまくできなかった家庭が一つあり、ギガタブの使い方の注意点（撮影後、映像の保存の為にしばらく画面を閉じずに置いておくことなど）を伝えればよかった。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・自立活動
- ・家庭との連携が必要な課題をもつ児童への支援

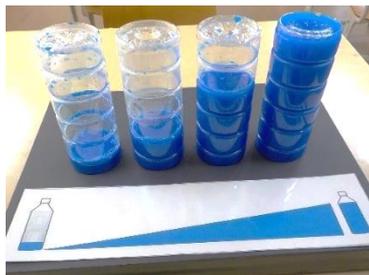
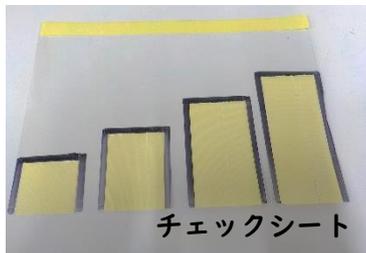
教材名

## 量を比べて並べてみよう！

目的 ・ 比較の勉強をしている児童に、量を見比べて多い(少ない)順に並べる力を付けてもらいたい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① 色水が入っているペットボトルを左が1番少ない、右が一番多いというように順番に並べていく。
- ② 4か所の穴に量を比べながら入れていく。
- ③ 全部終わったら「チェックシート」をボトルの前に置いて量が合っているか自分で確認する。

(工夫)

- ・初級として作った黄色の色水のボトルには比較しやすいように線を入れ分かりやすくした。また、メモリのように刻まれたボトルの線に対して1つずつ量を多くしているので比較がしやすくなっている。
- ・右に行くほど大きいことを表す右肩上がりの三角形を表示した。
- ・ステップアップ用として、線がない青い色水のボトルも用意した。
- ・水の量はペットボトルなので自由に増減できるようにした。
- ・色水を使うことで、手で持ったときに重さの比較もできるようになっている。

(使用感・改善点)

- ・しっかりとしたペットボトルなので、持ちやすく、ポコポコがメモリのようになっているので分かりやすい。
- ・ボトルに入っているのが水分のため、持ち運ぶのは少し重いことが難点であるが、ズシとした重量感も感じられるので筋力がある児童は簡単に扱えるのではないかと思う。

&lt;他に活用できそうな教科領域および場面&gt;

- ・ことば・かず
- ・自立活動

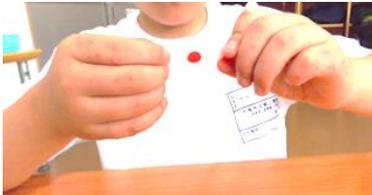
教材名 **指先トレーニングキャップ**

目的 ・指先を使った活動が苦手な児童に指先（特に親指と人差し指）を使った動きができるようになってほしいと思い作成した。同時に色や形のマッチングにも活用したい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点

**Aタイプ**



**Bタイプ**



(使い方)

**Aタイプ**

- ① 手順を読んで活動を理解する。
- ② キャップを開け、部品の種類や容器の形ごとに分けて入れていく。
- ③ 終わったら「できました。」と教師に報告し、入れる場所が合っているか一緒に確認する。
- ④ 最後は大きな箱の蓋を閉めて終わったことを確かめる。

**Bタイプ**

- ① 手順を確認する。
- ② 同じ色のキャップと容器を選んでキャップを閉める。
- ③ 同じ色の場所へ入れる。
- ④ Aタイプと同様に終わったら教師に報告し、一緒に確認をして蓋を閉める。

(工夫)

- ・親指と人差し指で開けられるような大きさのキャップを用意した。
- ・形が違う物と、形は同じで色だけが違う物など複数用意し、マッチングにも活用できるようにした。
- ・できたら箱のそれぞれの場所に仕分けて入れられるようにした。
- ・終わって蓋を閉めるとイラストが見え、達成感を得られるようにした。

(使用感・改善点)

- ・キャップの大きさが親指と人差し指2本で扱うのにちょうどよかった。
- ・2種類作成し、閉めるときと開けるとき逆の動きができるようにしたが、同じもので開けたり閉めたりできるものでもよかったかもしれない。
- ・魚の容器のキャップのほうはかなり小さく難易度が高かったので、活動の後半で扱ったほうがよいと分かった。
- ・蓋を閉めたときのご褒美イラストをもう少し児童が喜ぶものにしたほうがよかった。

<他に活用できそうな教科領域および場面>

- ・ことば・かず
- ・自立活動

教材名

いただきます～す！

目的 ・手で物をつかんで離すことを課題にしている児童が興味をもって取り組める課題を作成した。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① かごの中に食べ物のおもちゃや様々な感触のボールなど、児童が興味をもってつかみやすそうな物を入れておく。
- ② 教師の「いただきます～す。」の言葉かけでかごのボールをつかんで、口の中に入れる。
- ③ 口の中に食べ物を入れると鈴が鳴るようになっているので、音を確認、「おいしいだって。」と言葉をかけてできたことを称賛する。
- ④ かごの中の物が全てなくなったら、教師が「なくなったね。ごちそうさま。」と言葉をかけて終わりにする。

(工夫)

- ・口を開けたイラストは、マジックテープではずせるようになっている。他の動物イラストに張り替え、口の大きさ変化させ、難易度を上げるなどのアレンジができるようにした。
- ・イラスト下部分には足を付けて高さを出し、椅子に座ったときに入れやすくした。また、中身を詰めた牛乳パックにしたことで安定感が増した。
- ・口に入れると鈴が鳴るようにし、音で確かめることができた。

(使用感・改善点)

- ・食べ物に興味を示している時期だったので、楽しく取り組めた。
- ・入ったことを音で確認するために鈴を付けたが、理想は「おいしい」や「ばくり」などの音声。

&lt;他に活用できそうな教科領域および場面&gt;

- ・自立活動
- ・ことば・かず

教材名

## つかんで、とってみよう

目的 ・手元を見て触る経験を増やすとともに、指先をたくさん使えるようになってほしい。

教材等の写真添付

教材の紹介や工夫の要点



(使い方)

- ① 感触を一緒に確かめながらスポンジに触れ、教師と一緒に抜く練習をする。
- ② 好きなところから一つずつ、スポンジをつまんだり、握ったりして穴からとる。
- ③ 引き抜いたスポンジは児童が自分から放すまで待つ。
- ④ 4つ全部引き抜いたら終わりにする。

(工夫)

- ・つかみやすいよう柔らかい素材のものを使用した。
- ・取るものが見やすいように、箱を黒くし、スポンジが目立つようにした。
- ・力を入れないで抜ける場所と、少し力を入れないと抜けない場所で穴の大きさを少し変えた。
- ・箱がずれないように、設置するときは箱の下にガムテープや滑り止めを引いている。

(使用感・改善点)

- ・手で触る感触を楽しみながら、取り組むことができた。
- ・やわらかい素材でつかみやすく、穴から取った後も感触を確かめるようによく見て触っていた。
- ・スポンジに鈴をつけ音が鳴るようにしてもよかった。
- ・いろいろな素材、硬さや形の違うものを用意して取り組んでいきたい。

&lt;他に活用できそうな教科領域および場面&gt;

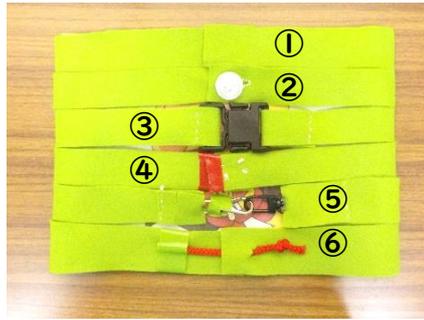
- ・自立活動
- ・ことば・かず

教材名

## とって、はずして何が出る？

- 目的
- 左手で押さえて、右手で開ける、はずすといったそれぞれの手が別々の力の加え方となる動きを促したいと思ったため。
  - 登下校リュックに付いているバックルを外すことが難しい児童がいるため、指先に力を入れることに慣れて日常にも活かせるようにするため。

教材等の写真添付



- ① マジックテープ
- ② ボタン
- ③ バックル
- ④ スナップボタン
- ⑤ フック
- ⑥ ひも抜き



↑フックの根本の固定



↑だんだんイラストが出てくる

教材の紹介や工夫の要点

(使い方)

- ① 児童の実態に合わせて、上から順番に外していったり、得意なところから始めたりする。
- ② 最後まで外すことができれば、児童の好きなイラストが出てくる。

(工夫)

- 手先を使うさまざまな種類の道具をつけることで、力の入れ方に変化が出るようにした。
- マジックテープやバックルなど、日常生活でよく使われるものにするここと、教材を日常に汎化することができるようにした。
- どこを持つと良いのか、また力が入りやすいのかが分かるように、赤いテープを巻き付けた。
- 外していくと出てくるイラストは児童に合わせて変更することができ、最後にイラストが出るようにすることで、モチベーションを保てたり、期待感をもちながら取り組んだりすることができるようにした。
- フックの根本部分が360度回転してしまい、金具を押しにくかったことから、固定して取り組みやすいようにした。

(使用感・改善点)

- マジックテープやスナップボタンは取り組みやすい。11
- フェルト部分をかなり引っ張って外そうとしていたため、フェルト部分が短かった可能性がある。
- バックルも含めて、金具を押しのまま引っ張るように、動作を維持したまま違う力を加えるという部分で苦手に感じる児童が多い。

&lt;他に活用できそうな教科領域および場面&gt;

- 自立活動